

CCAMLR 調和シンポジウム

CCAMLR 調和シンポジウムが、7月16日から20日にかけて、韓国のインチョンで開催され、当協会の科学顧問の一井太郎博士が参加しました。シンポジウムには、CCAMLRメンバー11か国と事務局から計57名が参加しました。

シンポジウムの主目的は、48.1 海区の新しいオキアミ漁業とドメイン1に設置が提案されている海洋保護区(MPA)について、保護と管理の調和を図るというものでした。具体的には、WG-EMM で提案されたシナリオに基づいて、禁漁区の面積と漁獲枠の両方が増えるwin-winのシナリオの構築を目指すこととされました。

検討の結果、禁漁区の空間配置の調整により、漁獲量が増えるような方向で勧告がまとめられ、今後、10月の科学委員会及び総会場でMPAの設置やオキアミ漁業管理全般についてさらに検討し、保護管理措置の改訂等が議論されることとなります。